

製品名: Hox-A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12164**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	37kDa

抗原情報

遺伝子名	HOXA1
別名	HOXA1; HOX1F; Homeobox protein Hox-A1; Homeobox protein Hox-1F
遺伝子 ID	3198.0
SwissProt ID	P49639
免疫原	抗血清はヒト HOXA1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

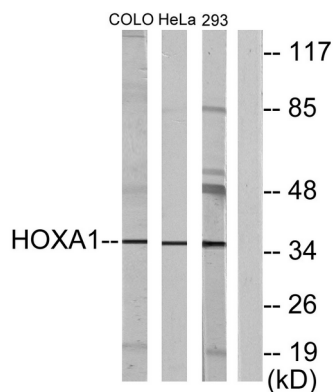
背景

脊椎動物では、ホメオボックス遺伝子と呼ばれる転写因子のクラスをコードする遺伝子が、4本の別々の染色体上のA、B、C、Dというクラスターに存在します。これらのタンパク質の発現は、胚発生中に空間的および時間的に制御されています。この遺伝子は7

番染色体のAクラスターの一部であり、遺伝子発現、形態形成、分化を制御する可能性のあるDNA結合転写因子をコードしています。コードされているタンパク質は、発生中に後脳の節を前後軸に沿った適切な位置に配置することに関与している可能性があります。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つかっており、そのうちの1つのアイソフォームのみがホメオドメイン領域を含んでいます。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：HOXA1の欠陥がアサバスカ脳幹形成不全症候群（ABSD）の原因である[MIM: 601536]。ナルバホ脳幹症候群としても知られる。この症候群は、水平注視麻痺、感音難聴、中枢性低換気、発達遅滞を特徴とする。一部の患者は、嚥下機能障害、声帯麻痺、顔面麻痺、発作、および心臓流出路異常を示した。疾患：HOXA1の欠陥は、ボズレー・サリフ・アロライニー症候群（BSAS）[MIM:601536]の原因である。罹患した個人は、水平注視異常、難聴、顔面筋力低下、内頸動脈および心臓流出路の血管奇形を示す。一部の患者は、精神遅滞および自閉スペクトラム症を呈する。ABSDの患者とは対照的に、BSASの患者では中枢性低換気は観察されない。機能：前後軸上の特定の位置アイデンティティを細胞に提供する発達制御システムの一部である、配列特異的転写因子。体前部構造に作用する。後脳節の維持および/または生成に作用すると考えられる。類似性：Antpホメオボックスファミリーに属する。唇垂科。類似性：1つのホメオボックスDNA結合ドメインを含む。

研究分野

画像データ



HOXA1抗体を用いたHeLa細胞、COLO細胞、293細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。